

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・学生向けキャンペーンに伴い、その家族の需要が目立つ。また他社からの乗換えも例年に比べ多くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の流通速度が早くなってきている状況を3月からは実感としてしっかりと感じられる。かなりの客が動いている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・新入学や新入社の時期であり、微増であるが、新しいものを加えようという様子がみられる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・週末だけでなく平日も来客数が増えている。時間帯でみて夕方まで来客数は確実に増えている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・文具の最需要期を迎え、来客数、販売量とも好調である。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・一時的単価一辺倒の購買行動から、ライフスタイルを意識した購買行動への変化がある。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・衝動買いはほとんど無く、婦人服や高級バックでも、家族設計や将来を見据えて吟味しながらの高額商品の買物傾向がみられている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・3か月前は、ほぼ大半の客がほとんどセール待ちの状態であった。したがって、プロパーの商品が動くということは本当に難しかった。ただ今はシーズンの立ち上がりということもあり、客の購買意欲がものすごく上がってきているため、マザーニーズで打ち出した時もスーツが良く売れた。インナーの方でも動きが良く、予算に対して、今は100を超えている状態である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・現在、客の買上単価が少しずつではあるが、上昇している。食品、菓子、雑貨は、業態間の競争も激しく伸び率は低迷している一方、特に、生鮮食品や惣菜部門が気温の上昇とともに、増えているように思う。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・不採算店を2月末で閉めたので、個人的な収支は良い方向に向かっている。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・好天候に支えられた感もあるが、来客数の前年同月比はほとんどの店舗で超えている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・商品単価が若干であるが上がってきている。新生活セット商品で安価な商品が前年は多かったが、今年はワンランク上の商品が売れている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・客の動きが変わってきた。新規来客数が半数を超え、成約の7割が新規顧客となっている。原因は新型車効果に間違いはないが、株価上昇など景気浮揚が動機となった購入もみられた。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・春先の代替え需要時期ということもあり、軽自動車を中心に販売量が多い。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・前年同月と比較すると税制の恩典が無くなっているため若干弱含みであるが、新型車の発売もあり販売環境としては好調に推移している。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・3月の車の販売量は前年同月比85%、それに対して、昨年12月の販売量は前年同月比67%であるため回復基調にある。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・映画興行やイベント動員が順調に伸び、その集客に合わせ衣料品や生活必需品の売上にもつながっている。春の卒業、入学、新年度に関連した商品に対する消費傾向に積極さがみられる。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年同月比で総売上99.7%、宿泊人数95.8%、宿泊単価104.6%となった。なお、宿泊人数は前年同月を下回ったが、個人客が好調で宿泊単価が上昇し前年並を確保できた。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・メリハリ消費といわれるように良い物には高額を出す傾向はあった。特に、客の関心が低額商品から内容重視に変化している。
通信会社（職員）	それ以外	・円安や賃上げにより、企業の多くが景気浮揚に期待しており、それが、地元中堅企業にも波及し、地元労働者の多くの消費意欲が高まっていると感じる。		
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・業界的に3月は年間最大の繁忙期である。前年同月と比較して販売量が増加している。		
美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が4か月続けて前年を上回っている。ここ数年なかったことで、多少手ごたえを感じる。		

	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・客のニーズは低価格商品に向けており大幅な受注増加につながっている。一方、高級注文住宅の受注は緩やかに増えているものの、消費税率引上げに連動した駆け込み需要とは考えられない。今後の告知状況の浸透でさらに増加すると期待している。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費税率引上げが現実的にみえてきており、本格的な駆け込み需要が始まった感がある。実際いずれの客からも消費税率引上げ前にとの言葉が出てきている。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・消費税率引上げの影響なのが、新築工事や増改築工事が増えているように感じる。
変わらない	一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	販売量の動き	・株高や円安などアベノミクスの効果か、消費者は心理的にゆとりが出てきているようにみえる。飲食料理店も以前のような厳しい声が少なくなってきた。
	スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店の動きを見ると、前月、前々月は少し上向きになると思ったが、ここへ来て数字の面をみてもそれほど変わらない状況が続いている。
	スーパー(総務担当)	来客数の動き	・今年になっても毎月客数が前年を下回っている。客1人当たりの買上点数も前年を下回っているため、無駄な買物をせず節約しているようだ。
	スーパー(総務担当)	お客様の様子	・菓子、酒といった嗜好品は相変わらず買上率が低迷している。また仕入先も同様な状況である。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・来客数は微増、客単価は微減の状態が続いている。
	コンビニ(店長)	来客数の動き	・季節的には好調に推移している。売上の的には多少好調でも12月～2月までと違い例年と同等もしくはそれ以上の期待を持っていただけに伸び率でみた場合、期待以上の売上ではなかった。包括すると、2月までは前年同月比を大きく下回っていたが3月は前年同月比を多少下回っている。2月までで下げ止まり3月は少し改善した。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・客の購買姿勢は、以前慎重である。円安によるガソリン価格、光熱費などの値上がりの影響が懸念される。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・円安、株高といったニュースが毎日流れている割には、店頭での客の買物行動の変化までには至っていない。
	衣料品専門店(経営者)	販売量の動き	・某税理士の話によると、「今の株高で利益を上げている会社や個人の額は半端な数字ではない」と言っている。しかし、小売業の数字には、まだ少しも表れていない。客の表情からは、悪いという段階は脱しているように思える。
	家電量販店(管理本部)	販売量の動き	・前年同月と比較して足元の販売実績に大きな変動は無い。
	自動車備品販売店(従業員)	単価の動き	・今月は中旬から例年より早く春タイヤが動き出したが顧客の要望は安価な商品に集中しており、前年同月からの単価は低下し、景気回復の実感はない。
	住関連専門店(店長)	お客様の様子	・現在消費税率引上げ前の住宅着工が増えてきているのは感じる。それにより一時的には売上は増加するとは思いますが、どの程度増加するかの予測が立たない。
	その他専門店〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・株も上昇し円安もある程度落ち着いてきており、少しは良くなると思われるが、私達の業界が良くなるには2～3年は掛かると思われる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経営者)	販売量の動き	・タイヤなどの買わなければならない物は購入しているが、消耗品の数字は伸びていない。
	その他専門店〔医薬品〕(総務担当)	来客数の動き	・来客数や客単価は、例年と目立った変化は無い。各メーカーから新商品が発売されているが動きは鈍い。化粧品は引き続き低価格帯中心の動きである。
	高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・送別会などの団体利用は例年並みで推移している。卒業や入試合格祝いなどの個人利用において、単価も客数も1割近く上がっているため好調な一面があるものの、法人接待利用がその分減少しているため大きな変化は無い。
一般レストラン(店長)	来客数の動き	・3月は例年より来客数が悪かった。しかし、実際の客足に結びついていないものの、雰囲気は改善されてきている。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・秋以降、来客数が前年割れの状態が続いている。	

		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門を核にレストランや宴会部門は前年同月比で増加、婚礼部門は減少しているが、全体としては増加傾向にある。
		都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊は、客数は増える傾向にあるが、客単価は5%程度落ちている。人の動きが増えてきているように感じるが、価格に対する見方が厳しいことは変わっていない。宴会やレストランでも同じ傾向にある。高額品が売れているとの明るいニュースを耳にするが、実感が無い。消費行動は2極化しているように感じる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ターミナル駅での待機時間が非常に長くなっており、雨が降っているような足場が悪い時でも客が増えていない。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・毎年3月は進学や異動の季節で、インターネット契約の取扱も増加する傾向にあるが、今年はほぼ例月に近い動きとなっており、景気回復を実感できるまでには至っていない。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・一般の団体や募集ツアー、また、円安による海外からの客数は団体を中心に伸びているが、一方、個人の客については、前年を割り込む利用状況になっている。全体としてはややプラスにはなるもののどちらともいえない状況にあると思う。
		その他レジャー施設(職員)	お客様の様子	・日々の利用者数は変わらないが、相変わらず入会者数が伸びない。
やや悪くなっている		商店街(代表者)	お客様の様子	・街中の人出が少ない。食品スーパーも夜に行くと売れ残り処分の半額シールを貼った商品が多く、ここに来て食料品にも節約志向の傾向が出てきている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今月は年度末ということにより、人が動いたり、それに伴うお祝いや内祝い、就職や入学がある時期である。ただし、東日本大震災から1年後の前年3月と比較すると、前年3月に際立ったギフト関係の動きが、今年はあまり良くなく、非常に厳しい3月であった。
		スーパー(統括)	お客様の様子	・ここ半年くらいで異業種の参入により、コンビニエンスストアやドラッグストアが生鮮食品に近い物を扱ってきている中で、客が少額の買物であれば近くのコンビニエンスストアやドラッグストアに行く傾向にある。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・当店は前年同月比、全く同じであった。ただし、経営者を含めお金にゆとりある客は、会話から株取りによる影響かにこやかにしているが、反面、その他大勢は先々の物価高や値上げに危機感を持ち、ますます二極化傾向にある感じがする。実態は決して良くはない。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・個人客の間際予約の期待できる春休みの時期であったが、全く動いていない。また、単価も当然厳しい状況である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は新年度に向けての買物客などで外出も増え、月末には送別会も始まる。また、給料も増加期待があり、街中に人出が少しずつ増えているように思う。しかし、比較対象月である12月は忘年会などで良かったので、それと比べるとやや悪くなっている。
		競輪場(職員)	販売量の動き	・3か月前と比較し、売上平均10%減となっている。
	悪くなっている	一般小売店[事務用品](役員)	販売量の動き	・例年、年度末は売上が増加する時期であるが、今年に限っては売上目標を大きく下回っている。物が動かないのと動いていても低価格競争が厳しいこともあって、売上も利益もないというのが現状である。
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・まだまだ単価が厳しい上に受注増に至っていないが、円高是正があって、輸出に対する引き合いは増えている。
		繊維工業(経営者)	取引先の様子	・富裕層と思われるが、デパート売場の高級品に動きがみられている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前の年末も年度末の今月も、工期が迫った工事の完成に向けてかなり多忙であるという状況は同じだが、補正予算による工事発注が増え、景気が良くなりそうだという希望が持てる。
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・アベノミクスに期待した為替相場と株式相場の回復により、百貨店業界では高級品にやや需要が戻ってきたと聞いている。また、中国関連でペンディングしていた信用状開設も再開され、工作機械などの受注も戻ってきていると聞かれる。

	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の皆さんの話では、少しずつ動いているとの話が聞かれる。
	司法書士	取引先の様子	・賃貸マンションや貸家の建築といった、資産運用のための不動産建築が増加した。
	税理士（所長）	取引先の様子	・建設業関係は非常に受注が順調である。ただし、むしろ人手不足でなかなか対応しきれない状況ではないかと思う。製造業の方も、輸出関連企業の下請関係、自動車関係の下請関係、建機やロボット関係が非常に順調にきていると思う。また、新年度に入れば、具体的な契約もまとまってくると思うため期待している。
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年同月比で販売重量が減少しているが、ここ数か月は同販売量で推移しており、ほとんど変化はない。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・産業資材などは少し動きはあるが、住宅資材は以前よりは少し動きがあるとみられる程度で、売上は増加とまではいっていない。
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内向け販売は比較的順調であるが、特に欧州向け販売は厳しいという状態がしばらく続いている。
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格は一部の安値業種において、依然として破格の価格による入札見積りが散見され、厳しい価格競争が続いている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・現状まだ個人消費が上向きとはならず、それに伴い物量が思ったほど上がっていない。
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安で軽油価格が上昇しているが、それを運賃に転嫁できない。物量も以前と変わらない。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・株価が上昇機運にあり、人々の景気マインドが非常に高まっており、足元の状況については、消費動向などを含めて上向きにあるが、現状が良いという段階にはない。現状は中庸であると判断する。ただ先行きについては明るさははっきりみえ始めており、個人消費についてはまだ明るさはみえないが、首都圏あるいは都市部から地方に徐々に波及してくると思われる。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・相変わらず、住宅メーカーのチラシ出稿量が上向きにならない状況にある。それに伴い、家電量販店のチラシ出稿量も停滞している。
やや悪くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・円安になり機械受注が伸びると予測していたが、受注量があまり増えていない。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連 (北陸)	良く なっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の売上は前年同月実績をわずかではあるが上回っている。
	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	・先月と変わらずIT系の求人の引き合いは増えてきている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	・3か月前に比べて求人数が1回の発行につき100件ほど増えた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・これまでみられなかった製造業や建築業などの求人が増えてきた。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・年度替わりの時期であり求人の案件は少ない。
		職業安定所（職員）	・製造業からの新規求人数が大幅に減少しているものの、卸売業や小売業を中心にカバーし新規求人数はほぼ前年同月と同水準を保っている。
		職業安定所（職員）	・事業主の求人意欲は業種によってバラツキがある。特徴的なものとして建設業は意欲が高くなったように感じられ、製造業は依然として意欲が乏しい状況がみられる。
		職業安定所（職員）	・前年の1～3月と今年の同期間の新規求人数全体の推移をみると、増加傾向にあるものの、業種によってはバラつきがあり、製造業では減少が続いている。したがって、全体的には良くなっているとはいえない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・人材紹介や派遣とともに新規依頼や増員を理由とした依頼が少なく、欠員補充の求人が多い。製造業関連求人も少ない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・平成25年3月の卒業生の就職状況は、前年度と同程度の状況である。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-